

Sir Simon Rattle

1月19日、サイモン・ラトルはリヴァプールに生まれた。当時はクラシックではなくジャズに影響を受ける。リズム感が強く、最初に買ったドラムセットは壊すまで叩いた。マージサイド青少年オーケストラのリハーサルを聴いた際も、彼は指揮者ではなく、ティンパニを叩く少年に特に魅了されている。

20世紀のクラシック作品のレコードを聞くことが大好きな姉がいて、母親に楽譜の読み方を教わった。この年、ハウス・ラティで日曜コンサートを主催し、「Music for Frustrated Conductors(ライラクした指揮者のための音楽)」シリーズのレコーディングのために、初めて指揮棒を手にするのである。

ロンドンの王立音楽院でピアノ、打楽器、指揮を学ぶ。

ボーンマス交響楽団およびシンフォニエッタのアシスタント指揮者を務める。

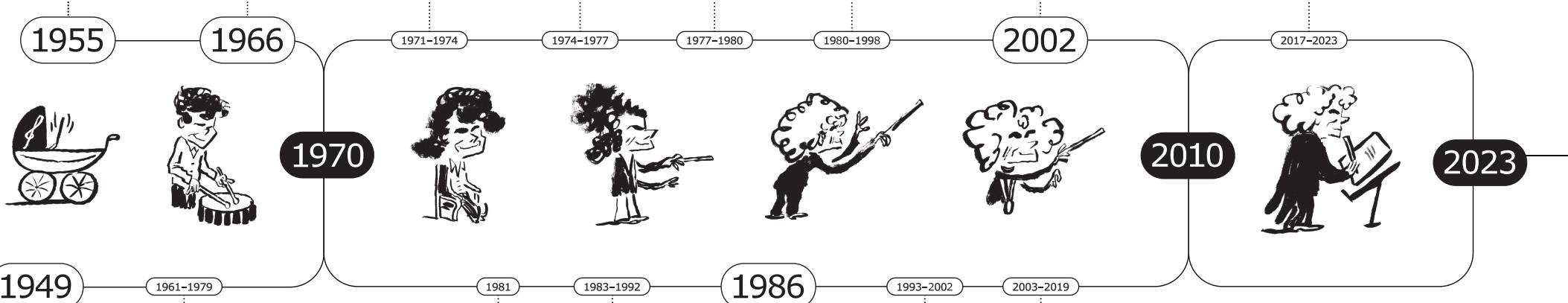
BBCスコティッシュ交響楽団およびロイヤル・リヴァプール・フィルハーモニー管弦楽団の首席アシスタントを務める。

バーミンガム市交響楽団の首席指揮者を務める。

女王から「ナイト・バチェラー」の称号を授与される。また同年、3,889人の演奏家が参加したバーミンガム市交響楽団のコンサートで「最も多くの奏者が参加したオーケストラ演奏」としての世界記録を打ち立てた。同年、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者兼芸術監督に就任。以来、2018年まで16年間にわたりベルリン・フィルを率いた。これはマリス・ヤンソンスがバイエルン放送交響楽団(以下BRSO)に在籍していたとの同じ期間である。

ロンドン交響楽団音楽監督を務める。

音楽の中にある永久不滅の精神:コロナ禍のなか、2021年1月3日にサイモン・ラトルはBRSOとの契約にサインした。2023/24シーズンから、亡きマリス・ヤンソンスの後任者として楽団を率いることを決意したのだ。この時代の転換期を、ラトルは次のように語っている。「人はやって来はるが、精神は残る。」



BRSO が7月1日に設立され、1960 年まで伝説的なブルックナーの大家、オイゲン・ヨツフムが礎を築き上げた。1955 年、ラトル誕生の年に BRSO は初のコンサートツアーを行った。この海外ツアーやがのちのオーケストラの世界的名声につながった、とヨツフムは語っている。

ラファエル・クーベリックが BRSO を 18 年間率いる - これは首席指揮者としての最長記録である。同年、彼は初めて交響楽団を指揮する。その活動に対する情熱はリヴァプール・フィルハーモニー管弦楽団の音楽家の知るところとなり、ラトルはリヴァプール・フィルの団員や音楽監督から指揮のアドバイスを受けるようになる。デイリー・テレグラフ紙は「サー・スリングのような雰囲気」と称し、彼の偉大な未来を予告している。

リヴァプールにおいて、BRSO がクーベリックの指揮でベートーヴェン交響曲第9番を演奏。その客席にサイモン・ラトルがいた。このコンサートは当時 15 歳の少年にとって指標となる。

同年、彼は初めて交響楽団を指揮する。その活動に対する情熱はリヴァプール・フィルハーモニー管弦楽団の音楽家の知るところとなり、ラトルはリヴァプール・フィルの団員や音楽監督から指揮のアドバイスを受けるようになる。

ギリル・コンドラシンが首席指揮者に選出されるが、就任前に急逝。同年、彼は初めて交響楽団を指揮する。その活動に対する情熱はリヴァプール・フィルハーモニー管弦楽団の音楽家の知るところとなり、ラトルはリヴァプール・フィルの団員や音楽監督から指揮のアドバイスを受けるようになる。デイリー・テレグラフ紙は「サー・スリングのような雰囲気」と称し、彼の偉大な未来を予告している。

ハイドンのオラトリオ「天地創造」は、ウィーンでの初演から 2 年後の 1801 年にバイエルン州オットーボイレンで初演され、その後ハイドンの没年 1809 年にも再演された。この曲は 1946 年、同地で第二次大戦後に演奏された最初の曲である。

1986 年には、レナード・バーンスタイン指揮 BRSO によって演奏されたことも人々の記憶に残っている。2023 年、BRSO の首席指揮者に就任したサイモン・ラトルはこれらの歴史に敬意を表して、オットーボイレンでこのオラトリオを演奏した。

ロリン・マゼールがその手腕によって BRSO の音楽的能力を飛躍的に発展させた時代。「彼らは全ての演奏会を最後のコンサートであるかのように演奏する。指揮者である私にとってはまるでロールスロイスに乗っているようなものだ。このオーケストラは本当に何でもできるんだ」 - マリス・ヤンソンス。

オーストリアの漫画家ニコラス・マーラーはロミー・シュナイダーやトマス・ベルンハルトなどの要人たちを、アイコニックなスタイルで描くのが好きな作家だ。サイモン・ラトルを描く際には、フランス・カフカ風に取り組んだという。

イラスト: Nicolas Mahler

Symphonieorchester des Bayerischen Rundfunks